

【H. I. D. 取付手順】

1. 電源の遮断 (図1)

- バッテリーのマイナス(－)端子を取外すなどで車両に供給される電気を遮断してください。
- ※バッテリーのマイナス(－)端子を取外すとラジオや時計などのメモリーが消えてしまいます。
- 端子を取外す前に記録を残してください。また、作業終了後には、必ず元の状態に復帰してください。

2. ヘッドライト脱着 (図2)

- 車両からフォグランプASSYを取外してください。
- ※車種により脱着方法が異なります。脱着の手順などは、整備解説書などをご参照ください。

3. H.I.D.バルブの取付け

- フォグランプから純正ハロゲンバルブを取外し、H. I. D. バルブをハロゲンバルブ脱着の手順で取付けてください。(図3) (図4)
- 【純正防水カバーに貫通穴がない場合】
 - フォグランプの防水カバーが樹脂(プラスチック)やゴム製で、貫通の穴がない場合、H. I. D. バルブの電源配線を通す為に下記の加工が必要となります。
 - ・防水樹脂カバーへ25ミリの丸穴を開けてください。
 - ※穴開け位置は、防水カバーを取付けた際にH. I. D. バルブの真後ろにくる様に位置決めを行ってください。
 - ※防水カバーへ開ける穴は、真円になる様、ホルソー(穴開け工具)などを使用し、加工をおこなってください。
 - ・防水樹脂カバーへ開けた穴にH. I. D. バルブの電源配線をフォグライトの中から外に出る様に白線、黒線、赤線をそれぞれ通してください。
 - ・H. I. D. バルブの電源配線に付属の防水ゴムキャップを樹脂カバーへ開けた穴に隙間ができないようにセットし、防水樹脂カバーと防水ゴムキャップの接合部をシール材などで防水処理してください。
- 【純正防水カバーに貫通穴がある場合】
 - フォグランプの防水カバーが樹脂(プラスチック)やゴム製で、貫通の穴がある場合は、下記の手順にて取付けをおこなってください。
 - ・防水樹脂カバーへ開けた穴にH. I. D. バルブの電源配線をフォグランプの中から外に出る様に白線、黒線、赤線をそれぞれ通してください。
 - ・H. I. D. バルブの電源配線に付属の防水ゴムキャップを樹脂カバーの穴に隙間ができないようにセットし、純正防水カバーと防水ゴムキャップの接合部をシール材などで防水処理してください。

- **アドバイス**
 - ※穴開け位置は、H. I. D. バルブをフォグランプへ取付けた状態で、H. I. D. バルブの真後ろに来る様に作業をおこなってください。
 - ※配線はフォグランプの内側から外側に向かって通してください。
 - ※防水ゴムカバーの接合部は必ず、防水処理をおこなってください。
 - ※H3C・HB4・H11/8バルブで電源コネクタがヘッドライト外部にある場合は、上記作業は省略されます。

- **電源線の接続(システム起動電源：12V)**
 - H. I. D. システムの起動電源線(赤線)と車輛側のバルブ電源線(12V電源)の接続をおこなってください。
 - ・防水ゴムキャップに付属の赤線に付いている平型端子を車輛側のバルブ電源カブラーまたは、端子へ接続してください。
 - ・接続部を絶縁テープなどで、確実に絶縁処理をおこなってください

- **アドバイス**
 - ※H. I. D. システムの起動電源線(赤線)と車輛側のバルブ電源線(12V電源)の接続をおこなう場合は、テスターなどで必ず12V電源位置の確認をお願いいたします。
 - ※電源線の接続後は、絶縁テープなどで必ず絶縁処理をおこなってください。
 - ※電源配線を接続する際、プラス(+)とマイナス(－)は、逆に接続しますとH. I. D. システムは作動しません。
- **ご注意**
 - 取付け作業により不点灯が起きた場合、そのまま使用せず、販売店へご相談いただき製品の確認をおこなってください。
 - この場合、製品内部に破損などのトラブルが確認されても、製品クレームとはなりませんのでご了承ください。

4. バラストの取付け (図5) (図6)

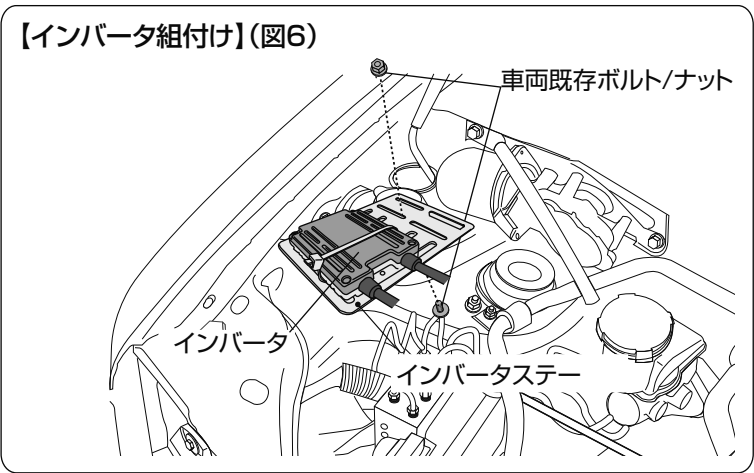
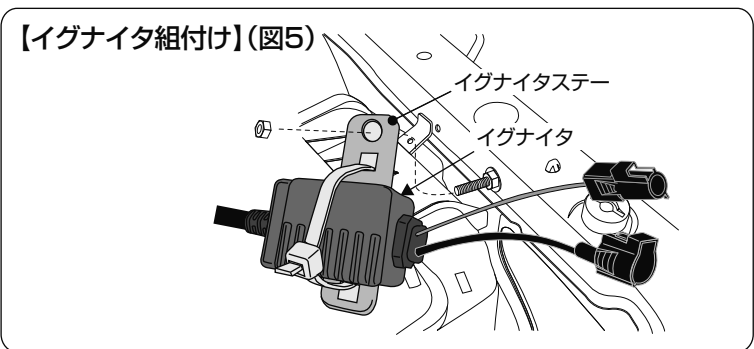
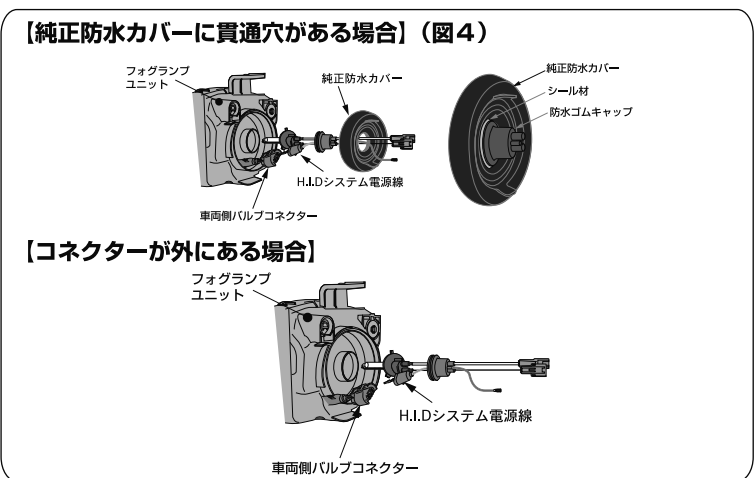
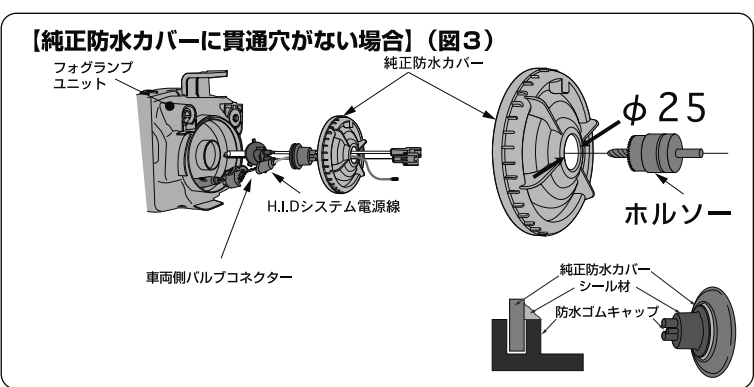
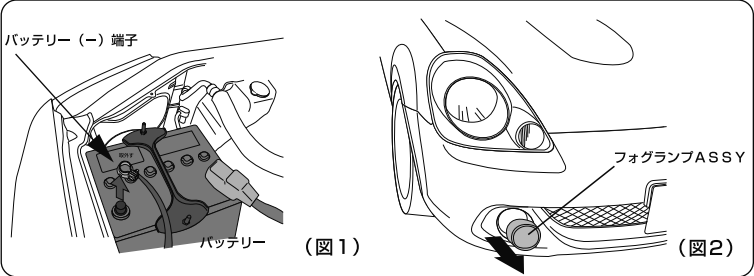
- ※組付けの際、イグナイタ、インバータは、高温になり易い場所や水など掛かり易い場所を避けて車体へ確実に固定してください。
- 1)イグナイタを付属のイグナイタ用汎用ステーとタイラップ(大)で、図の様に車体へ組付けてください。(図5)
 - ※イグナイタを車体へ組付ける際、コーナセンサー(ノナー)に近づけないでください。誤作動を起こす可能性があります。
- 2)インバータをインバータ用汎用ステーとタイラップ(大)を使い、固定し車輛へ組付けてください。(図6)
 - ※車種により取付けの場所や方法が異なりますので固定方法は取付けされる車種ごとに検討ください。
 - 付属のステーを車体の取付け場所に合う様、加工してください。

- **アドバイス**
 - ※イグナイタ、インバータをタイラップなどで固定する場合、両面テープなどを使い固定すると確実に固定できます。

5. ハーネス接続方法

- システムハーネスにリレーを接続してください。
- リレー本体を水など掛かりにくい適切な場所へボルト・ナットなどで確実に車両に固定してください。
 - 固定する際、リレーカブラーのハーネスが下側になる様に固定してください。(リレーを固定する際、接続するハーネスの届く範囲で固定してください)(ボルト・ナットは付属されております)
- システムハーネスから出ているギボシ端子(メス)Bとバラスト電源ハーネスギボシ端子(オス)B'に接続してください。バラスト電源ハーネスのコネクタをバラストに接続してください。
- システムハーネスのギボシ端子(オス)Aとコントロールハーネスギボシ端子(メス)のプラス側と接続してください。クワ形端子(黒線)Cは車両ポディーアース又は、バッテリーマイナス端子に接続してください。※車両カブラーの検電を行ってから接続してください。車両によっては、フォグランプスイッチがOFFの状態でも電圧(12V)が常時供給される車両があります。その際は、システムハーネスクワ形端子(黒線)C部をカットし、車両側フォグランプのマイナス端子へギボシ端子に加工し接続してください。
- システムハーネスのクワ形端子(赤線)(ヒューズケースのついている配線)をバッテリーのプラス端子へ接続してください。
 - ※ヒューズケースの配線は、必ず、下側になる様にタイラップ等でエンジンルーム内の適切な場所へ取付けてください。

- **アドバイス**
 - 取付け作業や電源の接続をおこなう前に、テスターなどを使用し必ず電源制御方式の確認作業をおこなってください。
 - ※バッテリープラスや他の電子機器などのプラス(+)電位がバラストを始めとするH. I. D. のシステムに接触しない様、十分ご注意ください。
 - バラストは電子回路使用した精密部品の集合体です。
 - 車輛へ取付ける際は、激しい振動やガタツキなどが無い様、確実に車体へ固定してください。
 - バラストの作動温度域は、－30℃～85℃以内です。
 - 極端に温度が上昇する様な場所(ラジエーターやエンジンの近く)への取付けは、絶対におこなわないでください。

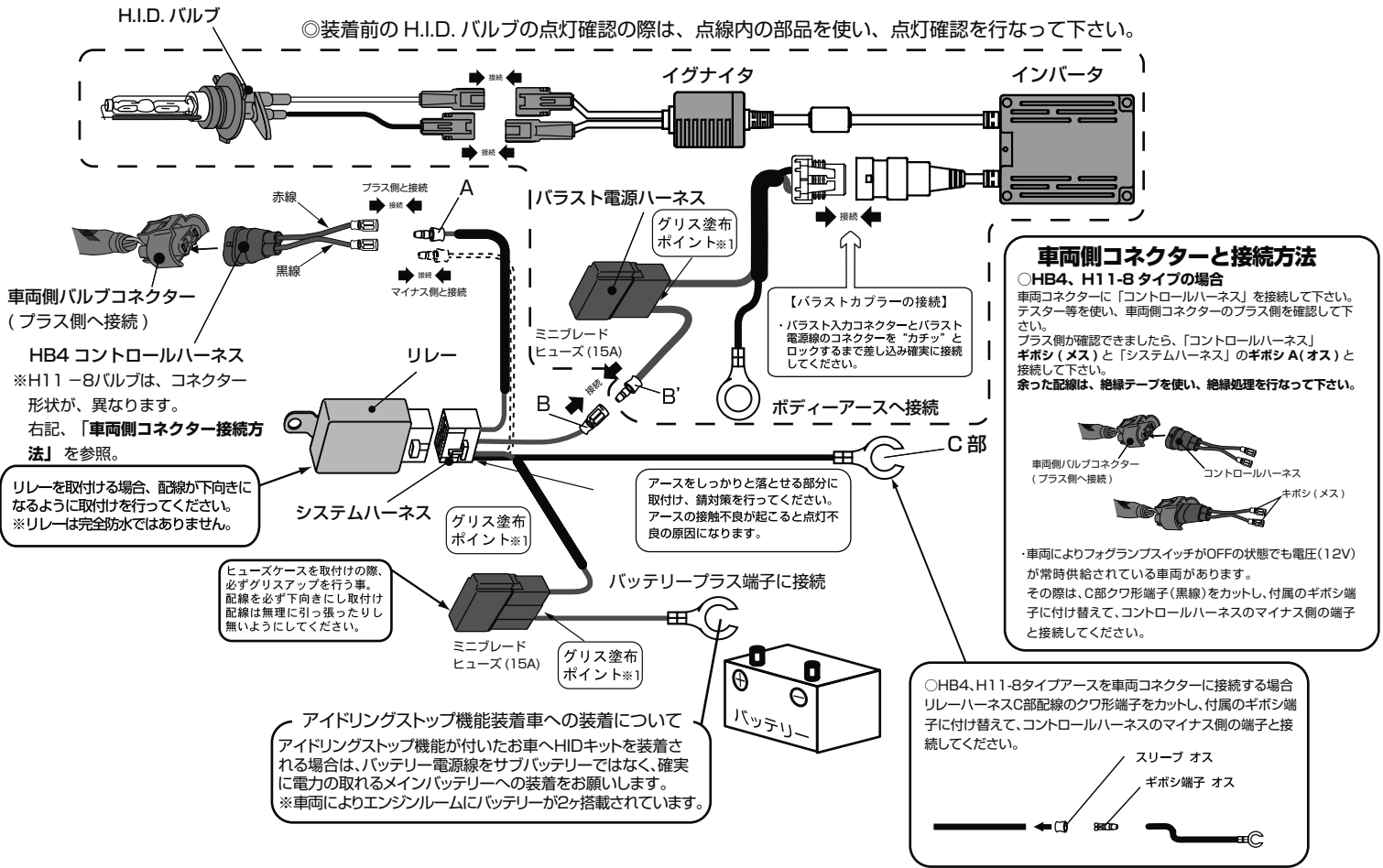


6. 車輛の復帰

- H. I. D. 取付手順1～5の作業で、車輛から取外した部品を元の状態へ復帰させてください。
- ※**ご注意**
 - 最後に必ず点灯テストと光軸の確認および調整をおこなってください。
 - この時点で作動に不具合(点灯しないなど)が発生した場合は、前項のトラブルシューティングをご参照の上、各部の点検をおこなってください。

H.I.D. システムハーネス配線図 リレーあり (HB4、H11-8)

※アイドリングストップ車、ハイブリッド車両又は、車両側バルブ電源が安定しない車両へ取付けの場合、システムハーネスをご使用ください。



バラスト電源ハーネス直接配線図 リレーなし (HB4、H11-8)

※車両側フォグランプヒューズが10A以下の場合、交換が必要になります。左右共通の場合、15A以上のヒューズに交換してください。

